

SEKISUIKASEI

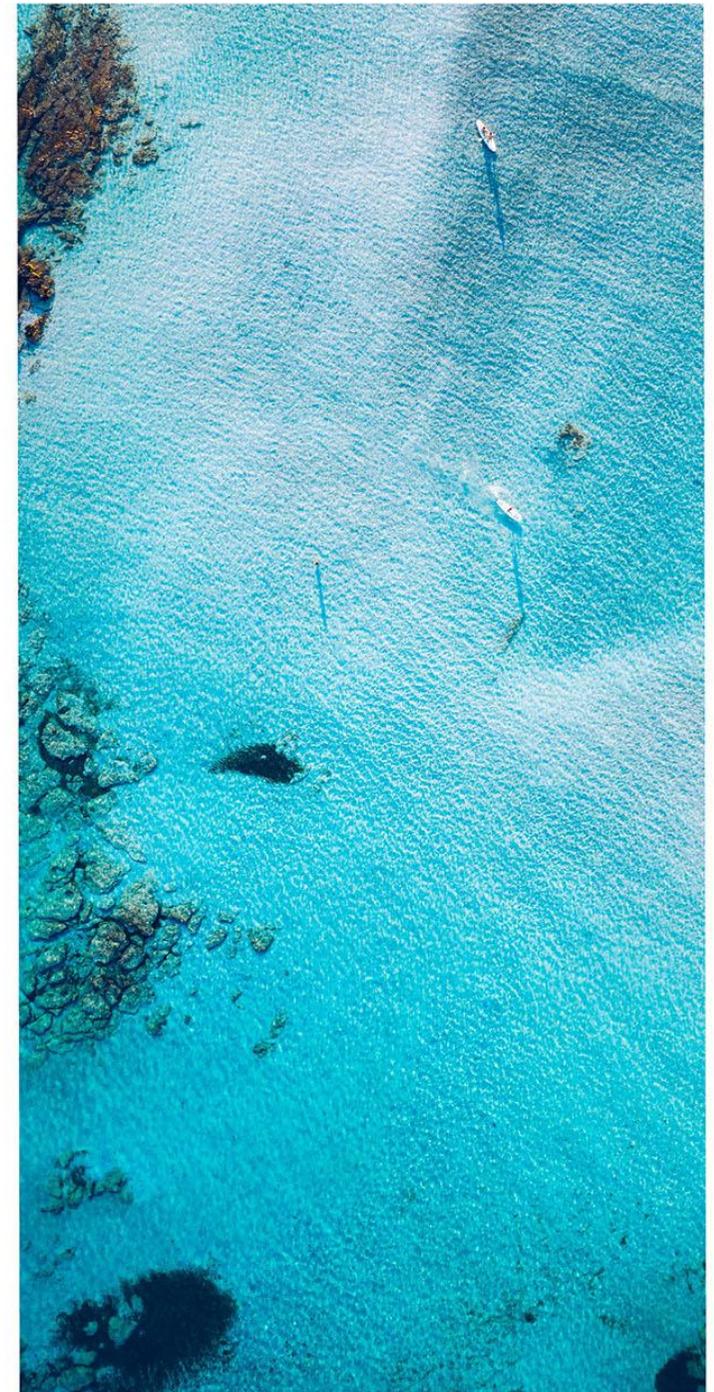
2023年3月期
第2四半期 決算説明資料

Spiral-up 2024

積水化成品工業株式会社

(プライム市場 証券コード：4228)

2022年11月7日



本日のご説明内容

- 1 2022年度 上期決算概要
- 2 2022年度 通期業績見通し
- 3 2022年度 活動トピックス

本日のご説明内容

- 1 2022年度 上期決算概要
- 2 2022年度 通期業績見通し
- 3 2022年度 活動トピックス

2023年3月期上期 決算概要

(単位：億円)	2021年度 上期	2022年度 上期			前年比		計画比			
	実績 (A)	期初計画 (B)	修正見通し (C)	実績 (D)	(D)-(A)	増減率	期初計画比		修正見通し比	
		(D)-(B)	増減率	(D)-(C)			増減率			
売上高	594.2	600.0	600.0	609.2	15.0	103%	9.2	102%	9.2	102%
営業利益 <営業利益率>	6.5 <1.1%>	4.0 <0.7%>	△ 4.5 —	△ 3.1 —	△ 9.7	—	△ 7.1	—	1.4	—
経常利益	7.5	3.0	△ 2.2	0.7	△ 6.8	—	△ 2.3	—	2.9	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3.4	1.0	△ 7.0	△ 3.5	△ 6.8	—	△ 4.5	—	3.5	—

※ 修正見通し (C) = 2022年8月2日公表値

- **前年比** 売上は、主に原燃料価格転嫁により「増収」
利益は、価格転嫁タイムラグや、火災事故対応による製品移管運賃などにより「減益」
- **計画比** 8月公表の上期連結業績予想に対し「増収・増益」
※ 原燃料価格スプレッド改善、原価低減、固定費削減、為替差益

2023年3月期上期 インダストリー分野

(単位：億円)	2021年度 上期	2022年度 上期		前年比		計画比	
	実績 (A)	期初計画 (B)	実績 (C)	(C)-(A)	増減率	期初計画比	
						(C)-(B)	増減率
売上高	356.3	346.0	352.7	△ 3.5	99%	6.7	102%
営業利益 ＜営業利益率＞	△ 5.5 —	△ 2.0 —	△ 1.3 —	4.1	—	0.7	—
経常利益	△ 5.6	△ 3.6	△ 3.4	2.2	—	0.2	—

- **前年比 売上：価格転嫁の増収効果も、液晶梱包材や自動車部材の需要減で、着地は「前期並み」**
利益：生産性向上や固定費削減等で「赤字縮小」 ※欧州Proseatの経常損失は、ほぼ「前年並み」

モビリティ：部材用途で自動車減産影響を受けた需要減少も、部品梱包材用途では需要増加
売上高は、原燃料等の高騰を受けた価格転嫁で前年を「やや上回る」

エレクトロニクス：液晶関連業界の第2 Qからの在庫調整局面による需要減少で、売上高も前年を「下回る」

医療・健康：エラストイルの用途拡大や、テクノゲルの医療用電極用途などで「好調」

2023年3月期上期 ヒューマンライフ分野

(単位：億円)	2021年度 上期	2022年度 上期		前年比		計画比	
	実績 (A)	期初計画 (B)	実績 (C)	(C)-(A)	増減率	期初計画比	
		(C)-(B)				増減率	
売上高	237.9	254.0	256.4	18.5	108%	2.4	101%
営業利益 <営業利益率>	15.3 <6.4%>	13.0 <5.1%>	7.0 <2.7%>	△ 8.4	45%	△ 6.1	53%
経常利益	15.5	13.2	6.7	△ 8.8	43%	△ 6.5	51%

●前年比 売上：需要減退も、原燃料価格高騰分の転嫁により「増収」

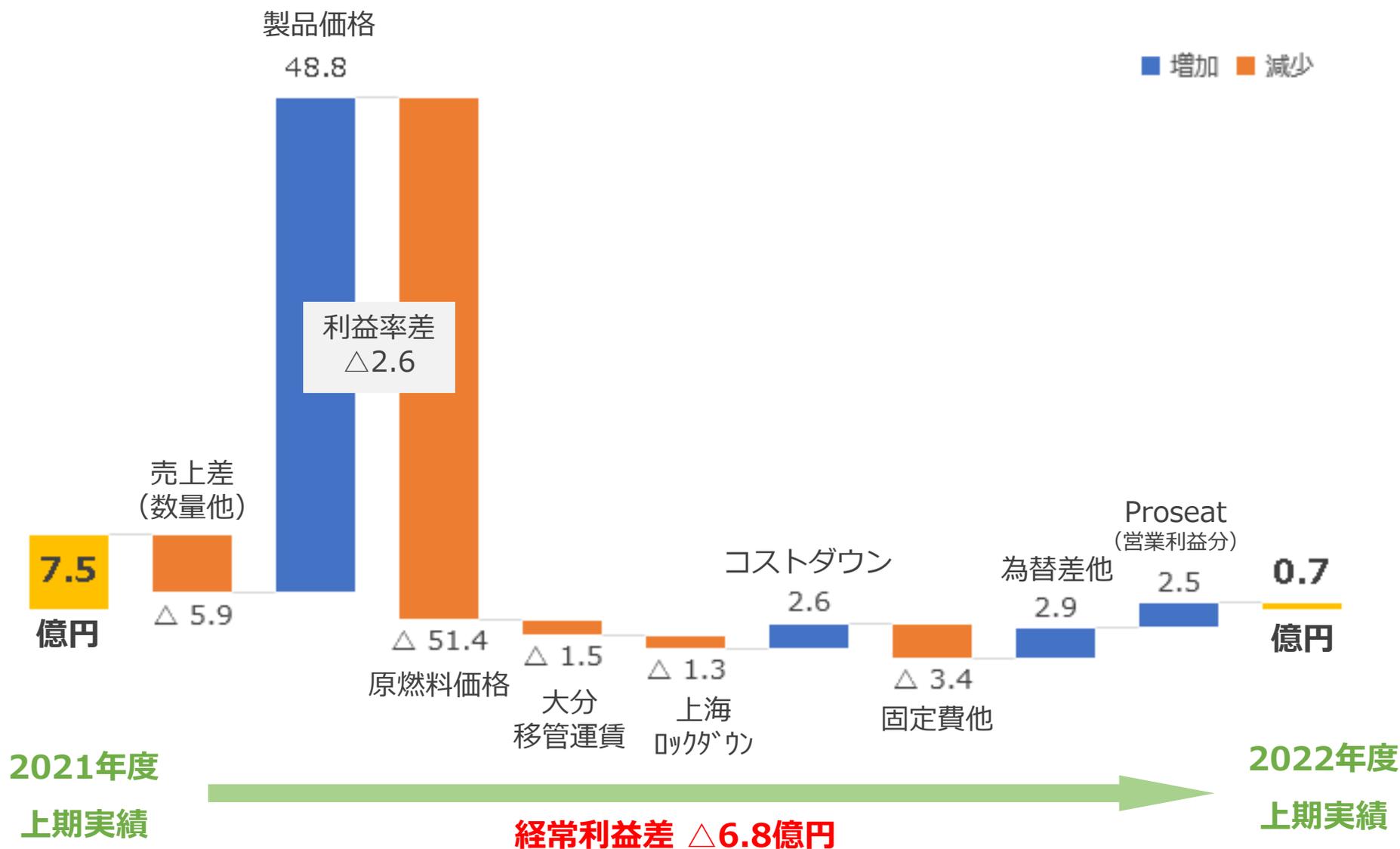
利益：原燃料価格等の急速な高騰や、火災事故対応の製品移管運賃などにより「大幅減益」

食：食品容器：観光・外食・弁当容器など復調の兆しも、内中食需要が落ち着きをみせ「やや減少」
農水産：農産は収穫時期の早まりなどで「需要増」、水産は漁獲量減少で「需要減」

住環境・エネルギー：土木用途は工事物件の遅れで「低調」も、建築用途は外壁材用途で「好調」に推移

(数量) エスレンシート：テイクアウト容器向けは堅調も、食品トレーや即席麺容器向けの需要が一服し「減少」
エスレンビーズ：水産用途やライフグッズ用途の需要減退などで「減少」

2023年3月上期 経常利益増減分析



2023年3月期上期 財政状況

(単位：億円)	2021年度 期末実績	2022年度 上期実績	前期 対比
総資産	1,433	1,488	+ 55
純資産	582	591	+ 9
自己資本比率	40.1%	39.2%	△ 0.9%
1株あたり純資産	1,272円86銭	1,304円95銭	32円09銭
(参考) 自己資本	575	583	+ 8
現金及び預金	105	104	△ 1
短期借入金	163	162	△ 1
長期借入金	139	158	+ 19
社債	70	70	+ 0
有利子負債	371	390	+ 19
D/Eレシオ (倍)	0.65	0.60	△ 0.05

※注) 上記の有利子負債は、借入金と社債の合算値です。

本日のご説明内容

- 1 2022年度 上期決算概要
- 2 2022年度 通期業績見通し
- 3 2022年度 活動トピックス

2023年3月期 通期業績見通し

(単位：億円)	2021年度	2022年度			前年比	
	通期実績 (A)	上期実績 (B)	下期見通し (C)	通期見通し (D)	増減 (D)-(A)	増減率
売上高	1,175.7	609.2	640.8	1,250.0	74.3	106%
営業利益 <営業利益率>	14.6 <1.2%>	△ 3.1 —	12.6 <2.0%>	9.5 <0.8%>	△ 5.1	65%
経常利益	14.0	0.7	10.1	10.8	△ 3.2	77%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 59.2	△ 3.5	4.5	1.0	60.2	—

● 通期業績見通しは、8月2日公表値から変更ありません。

● 経済情勢の見通し

新型コロナウイルスによる経済インパクトは、22年上期と同様の影響が出る見通し
部品供給不足やウクライナ問題などによる需要影響は残るも、徐々に回復傾向

● 市況想定

原油価格は第1Qにピーク後、上期末に向け軟化。エネルギーコストは上昇リスクあり

2023年3月期 通期業績見通し（インダストリー分野）

(単位：億円)	2021年度	2022年度			前年比	
	通期実績 (A)	上期実績 (B)	下期見通し (C)	通期見通し (D)	増減 (D)-(A)	増減率
売上高	680.4	352.7	357.3	710.0	29.6	104%
営業利益	△ 13.2	△ 1.3	9.6	8.3	21.5	—
<営業利益率>	—	—	<2.7%>	<1.2%>		

● 通期見通し

液晶パネル関連需要は低調予測も、世界的な自動車生産台数は回復傾向
 需要状況に応じた適切な生産体制とコストダウンへの取り組みを継続し、対前年「増収・増益」

● 上/下対比

原燃料高騰分の価格転嫁が上期に浸透、自動車生産台数の回復傾向もあり「黒字化」

モビリティ

電動部品物流受注及びピオセラン梱包材などリサイクル事業の強化

エレクトロニクス

ディスプレイ分野の在庫調整懸念も、今後成長が期待できる電子材料分野への開発強化

医療・健康

シューズ以外の分野へ展開強化(エラストイル)、AI-FIT-新処方による新領域への拡販(ゲル)

2023年3月期 通期業績見通し（ヒューマンライフ分野）

(単位：億円)	2021年度	2022年度			前年比	
	通期実績 (A)	上期実績 (B)	下期見通し (C)	通期見通し (D)	増減 (D)-(A)	増減率
売上高	495.3	256.4	283.6	540.0	44.7	109%
営業利益	33.8	7.0	15.3	22.3	△ 11.5	—
<営業利益率>	<6.8%>	<2.7%>	<5.4%>	<4.1%>		

●通期見通し

安定した食需要の取り込みと原燃料価格転嫁対応を進めるも、上期の急激な原燃料価格高騰と、大分の火災対応費用増などが影響し、通期では「増収・減益」

●上/下対比

上期に発生した原燃料マイナススプレッドは上期の価格転嫁により、対上期で「増益」

食（食品容器）

年末年始需要を含め、例年通り上期対比で約1割強の販売増と予測

食（農水産）

水産関連は天然魚の漁獲量減少が続くも養殖魚物流に展開、農産関連は堅調維持と予測

住環境・エネルギー

土木工期遅れ物件の施工が進捗する見込み

ビーズ（数量）

ライフグッズ分野のクッション用途需要の回復と環境貢献製品の市場投入拡大

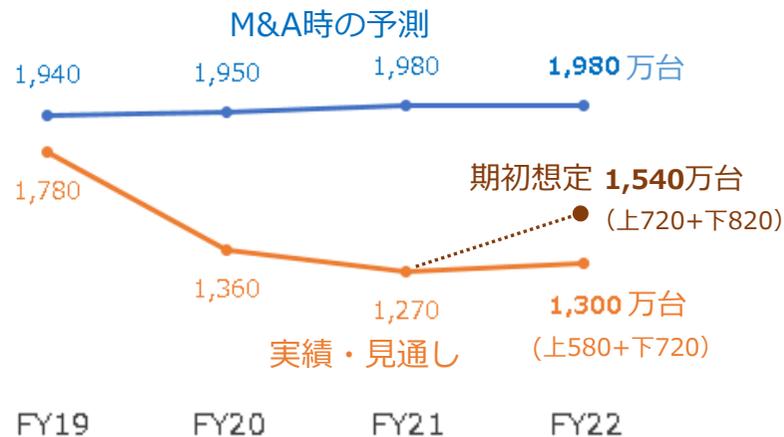
シート（数量）

観光関連分野の復調、テイクアウト容器、食品トレー需要は安定で環境貢献製品の開発強化

Proseatグループ2022年度概況

上期の自動車生産台数は、ウクライナ問題や半導体等の部品不足により年初予測を下回る状態が続く
下期には数量回復傾向も依然見通しは厳しく、拠点整備などによる効率化と固定費削減を継続

■ 西中欧自動車生産台数



■ 売上高推移



● 差別化戦略の推進と構造改革の継続

- ① 差別化戦略 : 複数の欧州OEMと高耐熱発泡樹脂 “ ST-Eleveat ”を中心とした複合軽量部材の開発を推進
(現：受注2件、開発具体化3件、その他提案多数)
- ② 拠点整備 : ポーランド2工場を1工場に統合し、機能集約での効率生産と労務費の抑制実施
- ③ 固定費・労務費圧縮 : コスト削減額△13億円(対2021年比)、従業員△10%(対2021年比)
- ④ 生産性改善 : 自動化、集約化による合理化、顧客生産調整による柔軟なシフト変更

2023年3月期 設備投資概要

(単位：億円)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
	実績	実績	実績	実績	実績	(期初計画)	上期実績	年間予定
設備投資額	78	74	53	54	38	(63)	19	50
減価償却費	41	45	61	62	62	(62)	28	60

● 主な設備投資

2022年度 上期実績

情報システムインフラ整備
生産性向上・生産能力拡大設備
安全対策設備

など

2022年度 下期予定

情報システムインフラ整備
合理化・生産性向上設備
グローバル拠点能力拡大
積水化成品大分生産設備

など

● 積水化成品大分の生産設備復旧

- ・現時点で約60～70%程度の生産能力復旧、他拠点での生産も含めてお取引様への供給体制整備
- ・九州地区の需要に応えるべく、能力アップ(約20%)も含めたリニューアル計画を策定し、早期の完全復旧に向け取組み中

2023年3月期 株主還元（予想）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022年度 (予定)
1株あたり当期純利益(円)	73.03	75.33	69.09	51.29	24.86	△ 130.99	2.21
1株あたり配当(円)	24	27	30	30	21	12	12
配当性向(連結)	33%	36%	43%	59%	85%	—	
自己株式取得(百万円)	718.5	621.2	—	—	141.5	—	
総還元性向(連結)	54%	54%	43%	59%	97%	—	
ROE	5.7%	5.5%	4.8%	3.6%	1.6%	—	
自己株式消却(万株)	100	—	—	—	—	—	

- **基本方針** 連結業績の動向に応じ、かつ配当の安定性と内部留保のバランスを総合的に判断（連結配当性向 30～40%を目処）
- **配当予想** 年間 = 12円/株（中間3円、期末9円）

本日のご説明内容

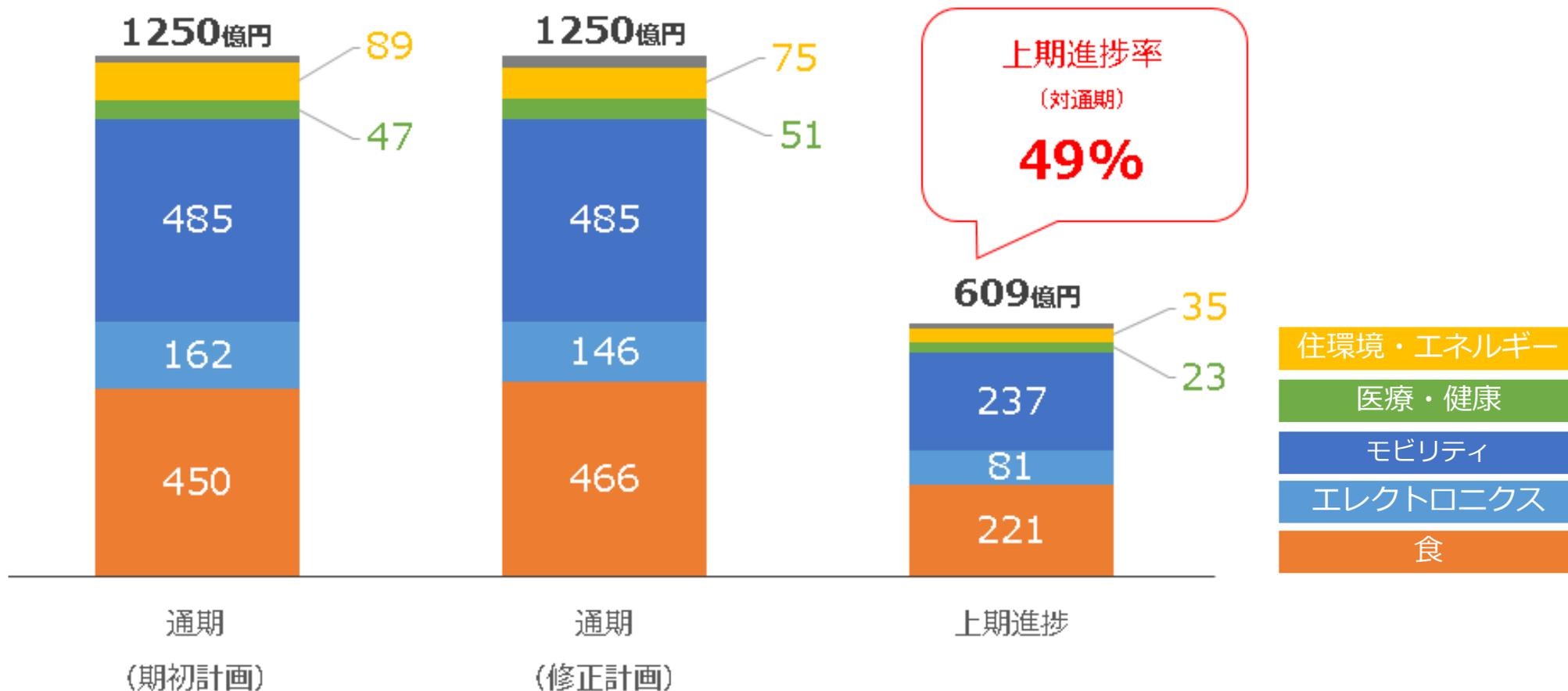
- 1 2022年度 上期決算概要
- 2 2022年度 通期業績見通し
- 3 2022年度 活動トピックス**

中期経営計画 “Spiral-up2024” の5事業領域

領域	位置付け	事業ミッション	2022年度 売上目標 (期初計画)
食	基盤領域	環境貢献製品の市場投入 食の安心・安全の提供やフードロス削減に寄与し 環境・社会課題の解決に貢献する	450億円
エレクトロニクス	注力領域	先端素材や環境貢献製品など 差別化製品で事業の高収益化をはかり デジタル技術の普及と高度化に貢献する	162億円
モビリティ		Proseatとのシナジー最大化と 新素材・新用途展開により EVなど次世代モビリティの技術革新に貢献する	485億円
医療・健康	期待領域	メディカル・ヘルスケア領域のニーズを 独自製品の高度化で応え グローバルに新たな価値を提供する	47億円
住環境・エネルギー		防災・減災やインフラ整備に対応する製品を展開し 持続可能なまちづくりに貢献する	89億円

※ インダストリー分野 = 「モビリティ」「エレクトロニクス」「医療・健康」、ヒューマンライフ分野 = 「食」「住環境・エネルギー」

5 事業領域の上期売上高進捗



● 通期計画に対し、上期の売上高進捗率は49%

5 事業領域トピックス「食」

リサイクルEPSのリターナブル宅配容器



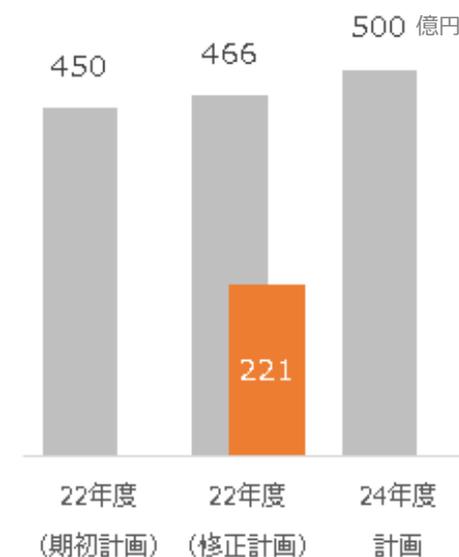
ReNew+

リサイクル原材料を活用した当社製品群

生協様のシッパー（リターナブル発泡スチロール製宅配容器）について、何度も繰り返し使用された後、回収・再資源化をし、再び生協様のシッパーとして循環させる仕組みを構築しています。今後この仕組みを全国の生協様へ展開していく予定です。

上期売上高進捗

■ 計画 ■ 上期進捗



環境貢献製品の追加市場投入に加え、関連業界と連携し、循環型ビジネスへの転換を進めていきます。

(上期進捗率47%)

5 事業領域トピックス「エレクトロニクス」

リサイクルEPS原料を100%使用した
リチウムイオンバッテリー収納容器



ReNew+

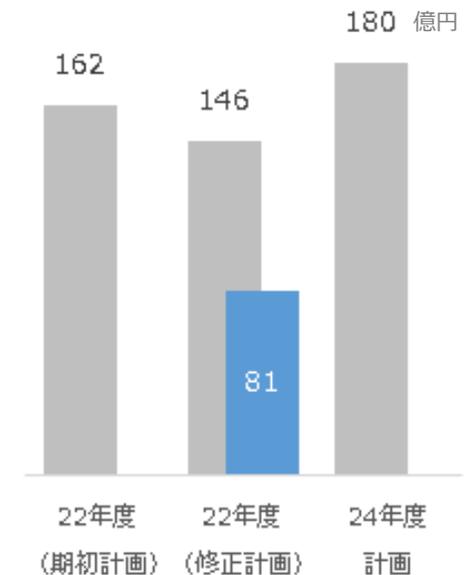
リサイクル原材料を活用した当社製品群

トレサビリティ可能なリサイクルEPS原料を100%使用したリチウムイオンバッテリー収納容器を開発し、日本パッケージングコンテストで最高峰のジャパンスター賞を受賞しました。

※東芝様・SBS東芝ロジスティクス様・当社の共同出品

上期売上高進捗

■ 計画 ■ 上期進捗



テクポリマーの電子材料分野展開など、今後大きく成長が期待できる分野への資源投入を進めていきます。

(上期進捗率55%)

5 事業領域トピックス「モビリティ」

ピオセラン梱包材の
クローズドリサイクル

ST-Eleveat BIO
高難燃グレードを開発

上期売上高進捗

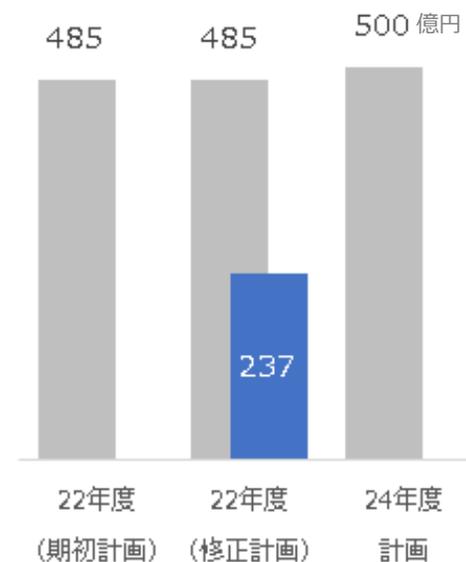
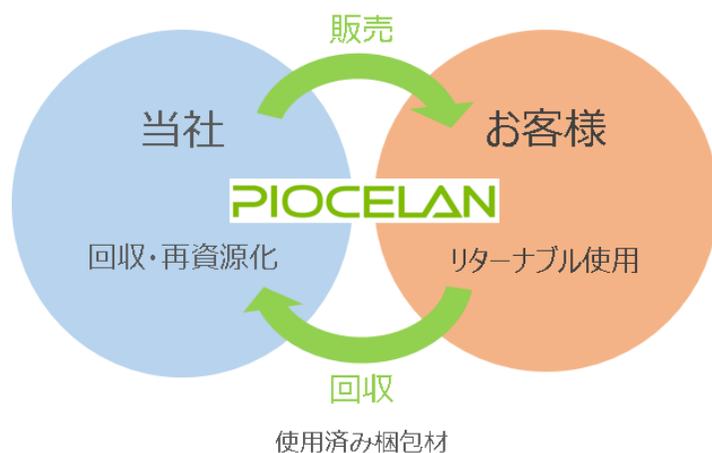
ReNew+

リサイクル梱包材

ST-Eleveat

高耐熱軽量発泡体

■ 計画 ■ 上期進捗



自動車部品のリターナブル物流で使用されたピオセラン梱包材を回収・再生原料化し、再度リサイクルピオセラン梱包材として販売する取り組みを進めています。

耐熱温度180℃、難燃性UL94規格「V-0」適合グレードを開発しました。現在、お客様とともに各種用途において、採用に向けた開発や評価活動を進めています。

大変革が起こる自動車分野でST-Eleveat等の開発素材を含めて採用部位の拡大を進めていきます。
(上期進捗率49%)

5 事業領域トピックス「医療・健康」

エラストイル（熱可塑性エラストマー発泡体） の用途拡大



プロテクティブスニーカー

※一定の安全性能や耐久性を備えたスニーカー調の作業靴

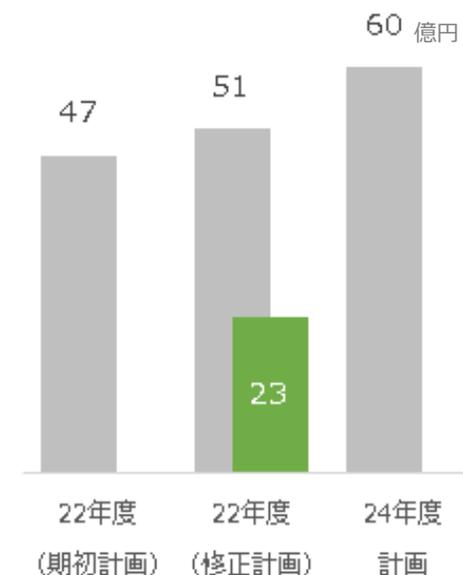


ランニングシューズ

「軽く、バネのように反発するので速く走れる」「クッション性が良いので怪我をしにくい」という素材特性を生かし、ランニングシューズのミッドソールに採用されています。新たに、「疲労感を軽減できる」というニーズから、プロテクティブスニーカーのソール材にも採用されました。

上期売上高進捗

■ 計画 ■ 上期進捗



成長する医療・健康領域へ、テクノゲル、化粧品用テクポリマー、エラストイルを軸にグローバル展開を進めます。
(上期進捗率45%)

5 事業領域トピックス「住環境・エネルギー」

海上公園整備でEFマリン（浮棧橋）や関連資材が採用



有明アリーナ船着場

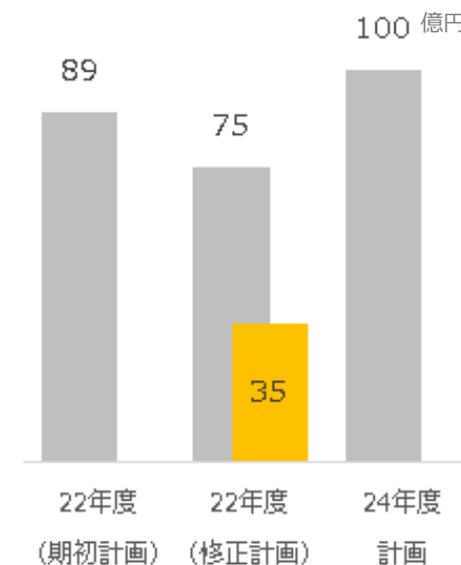


海の森水上競技施設

東京都が計画している海上公園整備の一環で、有明親水海浜公園（有明アリーナ）や、海の森公園（海の森水上競技場）にて、当社のEFマリン（浮棧橋）および関連資材が採用されました。

上期売上高進捗

■ 計画 ■ 上期進捗



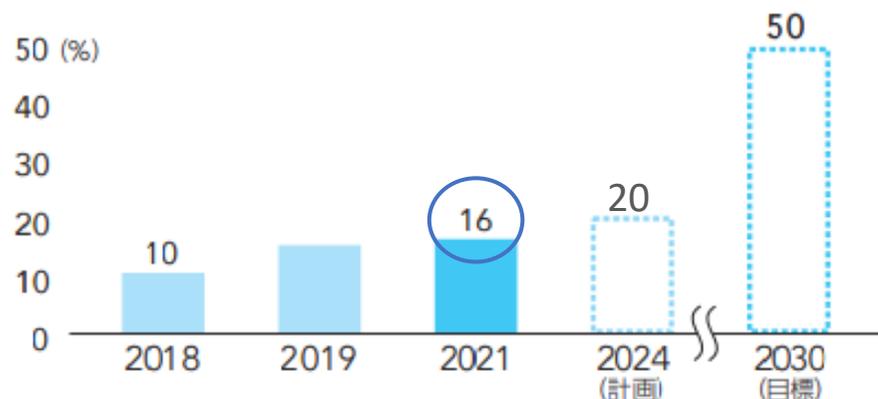
防災・減災やインフラ整備に対応する各種製品や、再エネ施設向け資材など、持続可能なまちづくりに貢献します。
（上期進捗率47%）

環境貢献製品の創出と拡大

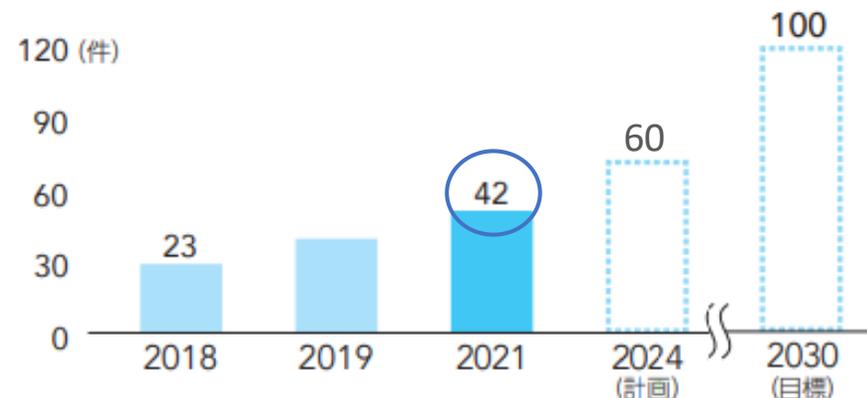


- サークュラーエコノミー実現に向けた2030年目標への進捗 -

サステナブル・スタープロダクト売上高比率



サステナブル・スタープロダクト登録件数



計画を上回る推移となっています

SKG-5R

売上高比率 = 実績 16% > 計画 12% (2022年上期末 17%)
 登録件数 = 実績 42件 > 計画 40件 (2022年上期末 46件)

環境貢献型のエスレンシートやエラスティルなどで売上高比率が伸長しました

※「SKG」はSekisui Kasei Groupの頭文字であり、「5R」は従来の3R (Reduce, Reuse, Recycle) に、当社独自の2R (Replace, Re-create) を加えたものです

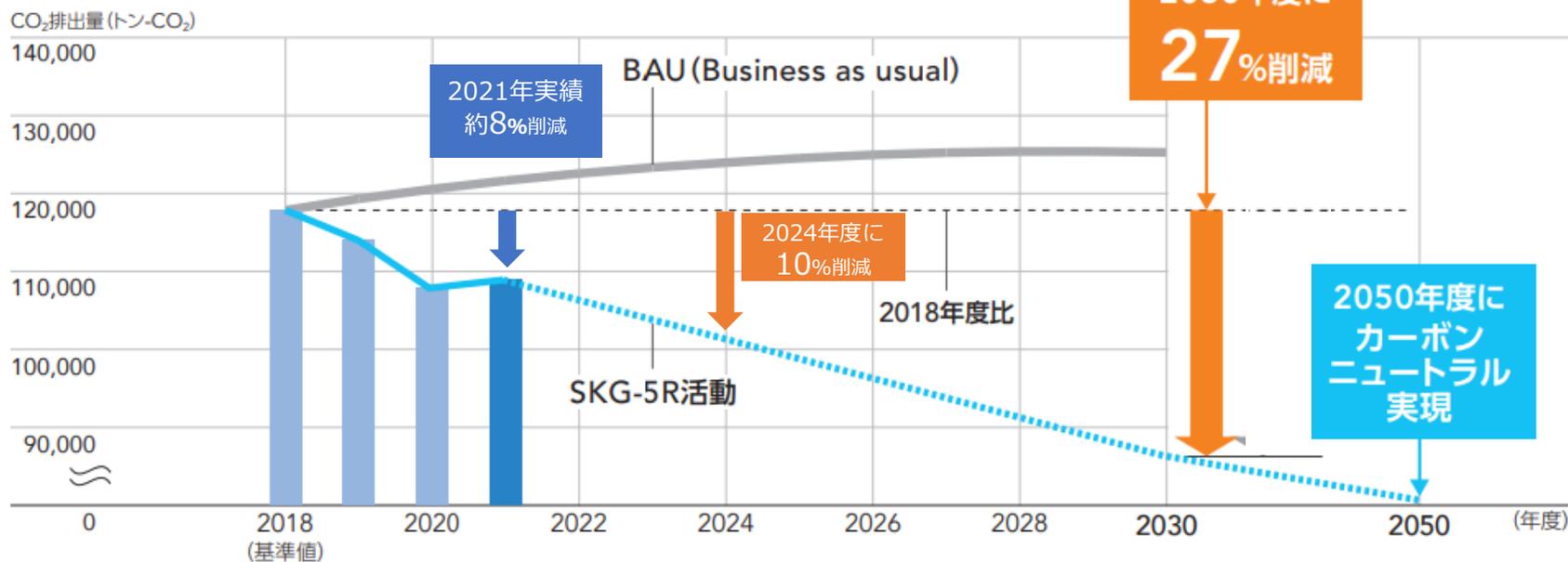
気候変動対応



2022年5月にTCFD提言に賛同しました。今後、気候変動対応に関する情報開示に取り組んでまいります

- カーボンニュートラルに向けた2030年目標への進捗 -

Scope1+2 削減計画



工場への太陽光発電設備導入

再生可能エネルギーの活用拡大を進めています

計画を上回る推移となっています

SKG-5R

CO₂排出量 実績 △ 8% > 計画 △ 2%

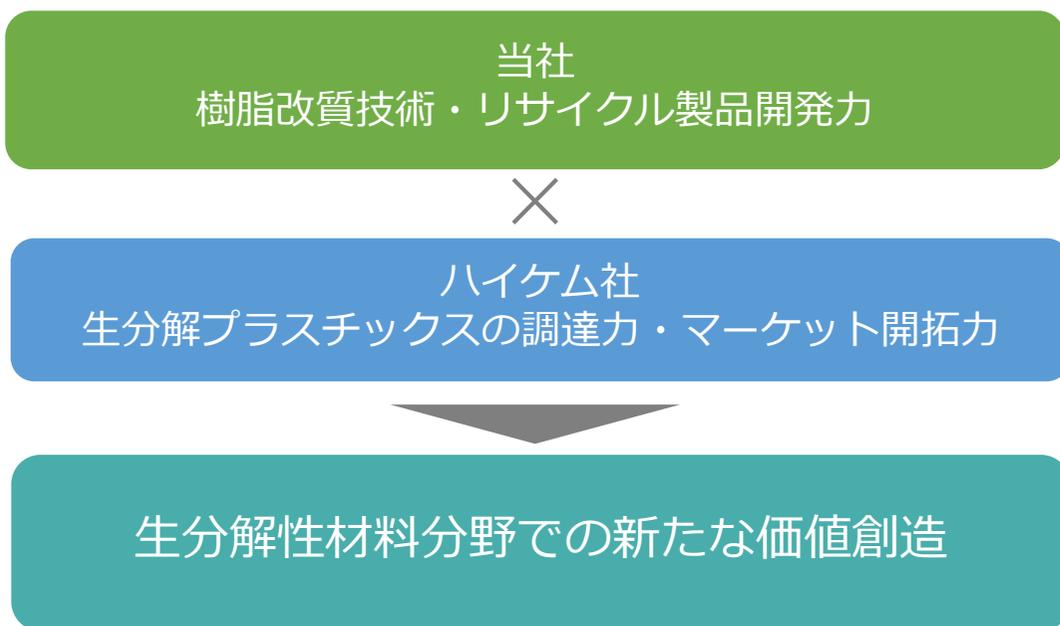
生産における省エネ・高効率化や再生エネルギー活用や、生産量および電力会社のCO₂排出係数の減少などでCO₂排出量を削減しました

生分解性プラスチック事業展開

BIOCellular

生分解性または
バイオマス由来プラスチック
を活用した当社製品群

ハイケム社との戦略的パートナーシップ連携



(共同開発事例)
P L A樹脂 射出ブロー成形品

当社の樹脂改質技術を応用した
P L Aの射出・ブロー連続成形品
(K 2022出展)

ESG経営の推進

ESG項目	カテゴリー	マテリアリティ	推進項目	関連するSDGs
E	環境	環境貢献製品の創出と拡大	SKG-5R推進（サステナブル・スタープロダクトの拡大）	   
		気候変動対応	SKG-5R推進（省エネ・再生エネルギー活用によるカーボンニュートラル実現）	
		環境負荷低減	大気・水・廃棄物・有害物質の適正管理	
S	革新	ビジネスモデルの強靱性	オープンイノベーション、外部連携・協働取り組み	 
		DX	生産革新、業務革新、マーケティング革新、研究開発革新	
	人材	ダイバーシティ	多様な人材活躍（女性・シニア・外国人）	   
		働き方改革	健康経営推進、ワークライフバランス、多様で柔軟な働き方の諸制度	
		ワークエンゲージメント	働く者の成長を促進させる人事制度設計	
	品質・保安防災	安全・安心の提供	ゼロ災・品質クレームゼロ推進	 
G	ガバナンス	コーポレートガバナンス	内部統制、取締役会の実効性向上、グループガバナンスの強化	 
		コンプライアンス	問題の未然防止、報告体制の充実	
		リスクマネジメント	B C Pの取り組み推進	

ESGマテリアリティの推進項目について社内KPIを定め、組織的に推進しています

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

内容に関するお問合せは

コーポレート戦略本部 IR広報部

E-mail : ir_pr@sekisuikasei.com

SEKISUIKASEI

Our Planet. Our Tomorrow.